

総会・懇親会初参加者寄稿

《金砂健児の集い》 に参加して

同期の仲間と生徒会の思い出 その後のエンジョイライフ

鈴木 巖 (昭和48年機械科卒)



昨年12月3日(日)第77回金砂健児の集い(東京秋工会総会・懇親会)に、卒業後45年で初めて参加しました。

多くの参加者の中で、昭和48年卒同期の我々4人【船木一美(MB)：副幹事長、坂下誠光(MB)、大高芳徳(A)、鈴木巖(MA)】が63歳とは言え、一番若そうに見えたこと、先輩の皆さんが故郷を離れて70年、60年・・・の思いから、懐かしい人との語り合いなど、時が過ぎるのを忘れて盛り上がりました。私は新人ということから、ステージ上で緊張感を持って自己紹介をする機会を得ましたが、その後の歓談中に、出身の井川町の同郷の先輩お二人から声を掛けられ、世の中狭いことに驚愕しました。その内お一人は何と、私が住んでいる横浜市戸塚区の方であったことには、神様が引き合わせてくださったこの必然に、東京秋工会が仲介役になったものと深謝している所であります。参加者の共通の話題・気になることは、ラグビー部、駅伝、バスケットボール部など、後輩の全国大会出場での誇りや活躍であり、会の終りには応援歌「秋工健児」「ラグビーの歌」などで、母校にエールを送りました。

東京秋工会に参加したきっかけは、上述の同期の桜であることに間違いのない所です。平成27年6月に首都圏在住の変わり過ぎた昭和48年卒同期5人が新宿に集まったことがスタートとなります。その後、参加者も声伝えに28年2月には7人、29年6月には5人が集まり、定着するようになりました。そして、火付け役となった仕掛人は、何と言っても船木一美による貢献が大であり、感謝満干であります。最近では、30年2月にも、12人が新宿に集まり、懐かしい話に大いに盛り上がりました。ただ残念なことに、小職はインフルに罹り、止むを得ず欠席したのが悔やむに悔やみきれず傷心しつつも、今年の再会を待ち侘びております。そして、更なる同期の和の拡大を図ってきたいものです。



このような機会を得る中で、昔を懐かしむ自分があります。

壮大な寒風山を臨み、八郎瀨に隣接し、田んぼが一面に広がる町から、昭和45年4月、奥羽本線羽後飯塚駅(今の最寄り駅は井川さくら駅)から、秋田県立秋田工業高校(秋工(あきこう))に通学する、俗に言う「汽車通」がスタートしました。

2年生時にクラスメートから生徒会の「会長に立候補したらどうだ」という心温まる声援があり(今の時代はいじめ?)、当時、素直で真面目な性格から、余りにも無謀な判断をしてしまったように思います。何せ、当時は出身中学校、とりわけ秋田市内の中学校の勢力が強く、大きな派閥となっており、郡部出身者にとっては戦う前から敗戦確実でありました。しかし、レスリングでインターハイ優勝の3年生の菅原さんの心強い応援弁士を賜り、自分自身にも熱い志が燃えたと、結果として僅差で当選を果たすことが出来ました。

時代は変革の最中、県内ナンバーワン偏差値の隣の秋田高校(秋高(しゅうこう))が服装の自由化をスタートしたこともあって、秋工においても同様の機運が高まり、「着帽の自由化」「長髪(ながげ)の自由化」「喫茶店出入りの自由化」の運動を生徒会の総意をもって、実現に向けて積極的に取り組みましたが、当時の阿部校長との交渉過程において「問題

が生じた場合の責任の取り方はどうするのか?」という議論経緯を踏まえ、生徒会としては湊健三郎先生顧問のご指導を仰ぐ中で、生徒間相互の信頼関係をもって、「連帯責任」という責任の取り方を提起することで、阿部校長から三つの自由化の案件に対する大英断を下して頂きました。当時の良き思い出が、我ながら、今でも満足感で一杯です。

今は人生をエンジョイすべく、下手な横好きのゴルフを年に数回はやっています。また、1年前前までは健康管理の面から、土日を中心に1日10~15キロメートルのランニングで汗を流すようになり、その成果で体重も10キログラム減少し、医学的な諸数値が大幅に改善し、主治医からも評価されるようになりました。そんな中、フルマラソン挑戦の目標を立て、東京マラソンに運良くエントリーが出来、フラフラになりながらも完走し、何とか6時間台で完走を果たすことが出来ました。その後も、2回目の東京マラソン、湘南国際マラソン、ホノルルマラソンに出場し、5時間台を何とかクリアした所です。まさしく「練習は裏切らない」訳ですが、現在は左膝に水が溜まり、マラソンは諦めざるを得なく、1日1万歩の歩行に目標を変更した次第です。ただ、最近は夜の会合も多く、体重が少し戻りつつあるのが残念です。



また、横浜市戸塚区にある自宅の近くで、町内会の仲間から畑(約80坪)を借用し、休日を中心に妻と農作業で気分転換しています。耕運機



で耕したり、土壌づくり、種まきや苗を植えたり、マルチやトンネル、水確保のために風呂釜を用意したりと、プチ農家で悪戦苦闘しています。田舎には及ばないものの土や草花の匂いが大変心地良く、かつ収穫の喜びを味わっている昨今です。

宝石・貴金属 専門店



伊藤貴金属店

TEL 018-862-2761

FAX 018-864-8612

代表取締役 赤塚 京二 (昭和40年土木科卒)